

## ヨハネによる福音書 2章 1～12節

今月の聖書は、従来「カナの婚礼」と呼ばれてきた有名な箇所です。現在の新共同訳では、小見出しが「カナでの婚礼」と日本語的により正確な表現になっていますが、ヨハネによる福音書が記す最初の奇跡物語です。

それは いったい、どんな出来事だったのでしょうか。そこから聴き取るべきメッセージとは はたして、どんなものなのでしょうか。御一緒に、順を追って見ていくことにしましょう。

### カナの婚礼

- ・上記のとおり、ヨハネ福音書が記す 最初の奇跡物語です。
- ・「カナ」は、1 節にあるように、ガリラヤ地方の町でした（参照：BFC「はじめに」資料3 地図、『新共同訳聖書』資料地図「6. 新約時代のパレスチナ」）。イエスの育ったナザレからそう遠くない、少し北に位置する町です。
- ・結婚式について

紀元 1 世紀のパレスチナでは、結婚式は通常、水曜日か木曜日に催されたといえます。①初婚の場合 水曜日に、②再婚の場合は木曜日に、という慣例に従ってです。

式は多くの場合、夕方、日が沈んでからもたれました。手順は、①花婿とその友人たちが松明を掲げ、花嫁の家へと行列を始める、②家に着くと、花婿が親しい友人らを連れて、家の中に入る、③花嫁の家で、結婚式を行なう、④終了後、今度は花婿の家に向け、皆で行列を行なう、という次第です。

式前後の光景をあわせて思い浮かべると、どんな印象をお感じになられるでしょうか。

- ・婚礼の宴について
- 婚礼の宴はこれに続く場面で、当時のユダヤでは重要なものでした。お返し的な釣り合いもあり、また宴が何日も続くことがあったため、事を落ち度なく、つつがなく進めることが大切でした。
- ・折も折、そんなときに 葡萄酒が底をついた、というわけです。
  - ・ユダヤ教の教師の言葉として、「葡萄酒なきところに、喜びなし」という言葉も残されています。そんな葡萄酒が祝いの晴れの席になくなってしまったとしたら・・・？
  - ・花婿の家族の心持ちは はたして、どんなだったのでしょうか？

### 「ぶどう酒がなくなりました」(3)

・事態を深刻に見たイエスの母マリアの言葉です。しかも、マリアはこの後5節で「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしていただきます」と、現場の召し使いたちに指示をしてもいます。マリアは、花婿の家族と特別な関係にあったのではないのでしょうか。

そもそも、花婿は誰だったのか。花嫁は誰だったのか。彼らとイエスの家族はどんな関係にあった

のか。聖書は何も触れていませんが、(現在の聖書に組み込まれなかった)後の福音書の中には、「マリアは花婿の姉だった」と記しているものもあります。

・いずれにせよ、マリアはイエスに助けの手を求めました。そこに、マリアのどんな思いがあったのでしょうか。

#### 「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです」(4)

- ・そのようなして助力を求めてきた母マリアへの、イエスの返答です。
- ・日本とは文化的な違いがあるかもしれませんが、それにしても親子の会話としてはやはり、どこかよそよそしく感じられます。
- ・言葉の裏に いったい、何があるのでしょうか。イエスのどんな思いが隠されているのでしょうか。

#### 「わたしの時はまだ来ていません」(4)

・そんなイエスの思いと、どこかで関係しているようにも思われます。続けて、「わたしの時は・・・」と、イエスは言葉を足されます。

・「わたしの時」とは、すなわち「イエス・キリストの時」であり、それは「十字架の時」にはほかなりません。

・その時が「まだ」来ていないとは、どういうことでしょうか。

そしてまた、「まだ」来ていないとしたら、だから どうだということでしょうか。

\*参考：イエスが本当の意味で <sup>おおやけ</sup>「公」の表立った活動に踏み出されるのは、この後の <sup>あと</sup>いわゆる「宮清め」の場面(2:13~22)からと言えます。その意味で、「カナの婚礼」事件は、厳密にはそれ以前のこととなります。

#### 「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」(5)

- ・マリアの期待は、残念ながら(表面上は)拒まれました。
- ・しかし、マリアはそれでも、召し使いたちに「この人が何か言いつけたら・・・」と指示を出します。
- ・そこには、マリアのどんな思いがあったのでしょうか。そして、それはどんなことを意味しているのか。また、私たちはそこから、どんなメッセージを聴き取ることができるのでしょうか。

#### 「水がめに水をいっぱい入れなさい」「召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした」(7)

・表面上は拒まれながらも、が 実際のところ、イエスがなされた応答がこれでした。

・「水をいっぱい・・・」「かめの縁まで・・・」とは、<sup>かめ</sup>甕にはもはや(これ以上)何も入れる余地がないことを表わしています。引き続いて起こされる奇跡の信憑性を裏付けるものです。

・ちなみに、6 節を見ると、<sup>みずがめ</sup>水甕は「石」のそれで、「二ないし三メートル入りのもの」が「六つ」あったと書かれています。現在の<sup>どりょうこう</sup>度量衡に換算すると、全体で 600 リットルほどにもなる かなりの量です。

- ・では、なぜ、それほどの水が必要だったのか。それもまた、6 節に述べられています。「ユダヤ人が清めに用いる・・・」
- ・ユダヤでは「清め」の習慣として、①家に入る際、埃<sup>ほこり</sup>だらけの足を水で洗うことと、②食事の前に、水で丁寧に手を洗うことが守られていました。ですから、婚礼の宴が何日も続いた場合、出入りする人々のためにこれらの水がどれほど必要になるか、想像に<sup>かた</sup>難くありません。

### 「世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした」(9)

- ・葡萄酒の奇跡は、ここで起こされました。水が葡萄酒に変えられた、という奇跡です。
- ・ただし、そのいわゆる奇跡そのものについては、ヨハネは「世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした」と、サラッと記すだけです。いったい、なぜなのでしょう？ ヨハネはそうすることで、読者に何を伝えようとしているのでしょうか。
- ・そもそも、葡萄酒の奇跡が意味するものとは いったい、何なのか。そこに、どんなメッセージが置かれているのでしょうか。
- ・留意すべきは、①水が、②葡萄酒に、③変えられた、という 3 つの点のように思われます。すなわち、
  - ①律法に基づく「清めの水」が
  - ②「イエスの葡萄酒」に
  - ③「変えられた」
 ということです。
- ・これらのそれぞれが何を意味しているのか、御一緒に考えてみたいと思います。
- \*参照：別の福音書になりますが、「新しいぶどう酒は、新しい革袋に」(マタイ 9:17) という、イエスのよく知られた言葉があります。このように、葡萄酒は「恵みによる救い」を意味するものとして、イエスによる「福音」と結んで言及されることが少なくありません。

### 〔参考〕「ヨハネによる福音書」と「創世記」

- ・ところで、お気づきでしょうか。ヨハネ福音書の展開が練られた仕方でなされていることです。
- ・例えば、その一つとして目を惹くのが、冒頭の書き出しです。ヨハネによる福音書は「初めに<sup>ことば</sup>言があった」(1:1) と始まりますが、これはどこかで目にした言い回しではないでしょうか。旧約聖書の「創世記」の書き出し、「初めに、神は天地を創造された」(創世記 1:1) です。
- ・このように、ヨハネの福音書はその冒頭を、聖書の初めの書「創世記」を念頭に置いて書き出していることが分かります。
- ・そして、その流れが実は、冒頭の書き出しだけで終わらず、いままし継続しているようにみられます。どういうことかという、冒頭の序文に続く直後の「1:19~2:11」が 以下のように、7 日間の出来事として記されていることです。
  - ①「さて」(1:19)

- ② 「その翌日」 (1 : 29)
- ③ 「その翌日」 (1 : 35) → 「泊まった」 (1 : 39)
- ④ 「その翌日」 (1 : 43)
- ⑤ —
- ⑥ —
- ⑦ 「三日目に」 (2 : 1)

・創世記も初めの出来事を 7 日間のそれとして表現していることを思うと、ここにもまた、ヨハネ福音書と創世記の重なりを見ることができないでしょうか。

・だとしたら、ヨハネのその意図は何なのか。ヨハネはこのことを通し、読者に何を伝えたいのでしょうか。

\*参考①：前述のとおり、イエスが本当の意味で 公の表立った活動に踏み出されるのはこの後の「宮清め」の場面からで、「カナの婚礼」事件はその前段部分の締め括りとなっています。

\*参考②：出来事としては、水が葡萄酒に変えられたことです。しかも、ヨハネはそれをイエスの最初の奇跡として記しています。

\*参考③：ヨハネはイエスの言葉として、「新たに生まれる」(3 : 3) といった類いの表現を一度ならず書き留めています。

\*参考④：創世記は、天地の創造について語っています。ならば、ヨハネは・・・？

### 「あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました」(10)

・イエスは、母マリアの期待を表面的には退けられました。

・しかし、最終的には、その状況を顧みてくださいました。

①水を葡萄酒に変えられた。

②十分な量の葡萄酒に。

③しかも、良質なそれに。

④そのようにして、婚礼の宴を救ってくださった。

⑤さらには、新生活を始める花嫁と花婿に、家計の蓄えともなる贈り物を残された(?)：飲みきれずに残った葡萄酒。

・こうした一連の経緯から、私たちは何かしら 信仰の意味深い真理を聴き取ることができるでしょうか。

### 「イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って・・・」(11)

・終わりに一点、ヨハネによる福音書を読み進めるうえで重要なかぎともなる事柄について見ておきたいと思います。

・それは、ヨハネの福音書は 実のところ、いわゆる「奇跡(δύναμις, -εως, ἦ)」という言葉も一度も使っていない、ということです。

そこに見られるのは「しるし (σημείον, -ου, τό)」という言い方であり、「業 (ἔργον, -ου, τό)」  
という言い方だけです。しかも、<sup>もつぱ</sup>専ら「しるし」という表現が主<sup>おも</sup>に用いられています。

・さらに言えば、「しるし」や「業」というこれらの言葉は、いわゆる奇跡的な出来事だけでなく、  
普通の<sup>しわざ</sup>仕業にも使われているのです。

・これは いったい、何を意味しているのでしょうか。ヨハネの福音書は このことを通し、何を伝え  
ようとしているのでしょうか。

\*参照：イエス御自身が 時に、<sup>みづか</sup>自らなされた奇跡的な業を「だれにも話さないように」と言っ  
ておられます (マタイ 8:4、マルコ 1:44、ルカ 5:14)。

・「最初のしるし」の舞台となった所は、「ガリラヤのカナ」でした。

それは、中央のエルサレムから遠く離れた、地方の小さな町です。そこで最初の重要なしるしが示  
されたということは、いったい、何を物語っているのでしょうか。

.....

ヨハネによる福音書は、この<sup>のち</sup>後、本文の本体そのものへと入っていきます。